

宮崎県日南海岸より得られたフサカサゴ科魚類2種

本村浩之・上山和弘・岩槻幸雄

近年、著者らは、宮崎県周辺海域におけるフサカサゴ科およびイボオコゼ科魚類相の調査を行い、それぞれ17属28種および3属3種を確認した(Motomura & Iwatsuki, 1997)。その後、同海域よりフサカサゴ科魚類2種(セムシカサゴ *Scorpaenopsis diabolus* (Cuvier, 1829) とウルマカサゴ *S. oxycephala* (Bleeker, 1849)) が報告された(本村・岩槻, 1999)。今回新たにフサカサゴ科魚類2種、フサカサゴ亜科ヒレナガカサゴ属のヒレナガカサゴ *Neosebastes entaxis* Jordan & Starks, 1904 とオニグルマオコゼ亜科オニグルマオコゼ属のオニグルマオコゼ *Synanceia verrucosa* Bloch & Schneider, 1801 が宮崎県日南海岸より採集されたので、ここに記載、報告する。

計数・計測方法は Hubbs & Lagler (1958) に、頭部の棘の名称は尼岡(1984)に従った。分類体系は Nelson (1994) に従い、オニグルマオコゼをフサカサゴ科オニグルマオコゼ亜科に帰属するものとした。本報告に用いた標本は全て宮崎大学農学部水産科学講座(MUFS: Division of Fisheries Sciences, Miyazaki University) に保存されている。

標本の入手にご協力頂いた宮崎県南郷町南郷漁協の中野義秋組合長、販売課の倉尾孝文氏、および同漁協所属の仲買人の門川安秀氏に謹んで感謝の意を表す。また、採集調査の際にお世話になった宮崎大学の長野直樹氏、Andi Iqbal Burhanuddin 氏、日高浩一氏、大山 謙氏、御手洗 修氏、猪原隆司氏、および斎藤晶子女史に深謝する。

ヒレナガカサゴ

Neosebastes entaxis
Jordan & Starks, 1904
(Fig. 1)

材 料

MUFS 13914, 1 個体、標準体長152 mm(全

長190 mm)、宮崎県南郷町目井津大島西部、水深8 m 以浅、小型定置網(桝網)、本村浩之採集。

記 載

背鰭13棘8軟条、臀鰭3棘5軟条、胸鰭軟条数21、腹鰭1棘5軟条、側線有孔鱗数34、側線上方横列鱗数7、側線下方横列鱗数15、鰓耙数20(切り株状のものを含む)、眼下骨棘数8、前鰓蓋骨棘数5、涙骨下縁棘数7。

標準体長に対する割合を以下に示す。頭長2.27、体高2.87、胸鰭基部の体幅4.16、眼径6.91、両眼間隔幅11.69、眼後長4.78、吻長8.94、上顎長5.63、最長背鰭棘長(第3棘)3.45、最長臀鰭棘長(第2棘)4.39、胸鰭長3.23、腹鰭長3.62、尾柄長5.59、尾柄高9.50。

胸鰭に欠刻がない。背鰭棘は著しく長く、鰭膜は深く欠刻する。眼隔域は窪む。胸鰭後端は臀鰭基底始部を越えない。側線前部が背鰭棘基部に向かって湾曲する。

生鮮時の体色は Fig. 1 を参照。10%ホルマリンで固定後、70%エチルアルコール中に保存された標本の体色は MUFS 13914 の1標本に基づく。眼球上の周辺部の皮膚に黒色の虫食い模様

がある。背鰭軟条部と尾鰭に小黒点がある。腹鰭は白色で薄い黒色で縁取られる。

生息状況

これまで、本種は宮崎県周辺海域では本報告の1個体以外採集されていないことから、同海域における本種の生息数は極めて少ないと考えられる。

分 布

日本に分布するヒレナガカサゴ属魚類は本種1種のみである。本種は相模湾から土佐湾(中坊, 1995; 石田, 1997)、宮崎県南郷町大島(本報告)、鹿児島県種子島(本村未発表、MUFS 15913~15915、3個体、標準体長164~185 mm)、および小笠原諸島(瀬能 宏氏私信、神奈川県立生命の星・地球博物館魚類資料 KPM-NI 78、西島沖水深135 m; Randall *et al.*, 1997) に分布する。一方、国外ではオーストラリア(Randall, 1981; Gloerfelt-Tarp & Kailola, 1984) と台湾(Shao & Chen, 1993) から報告されている。また、神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類写真資料データベースには、駿河湾の大瀬崎の水深13 m (KPM-NR 8727) と水深7 m (KPM-NR 40677) で撮影

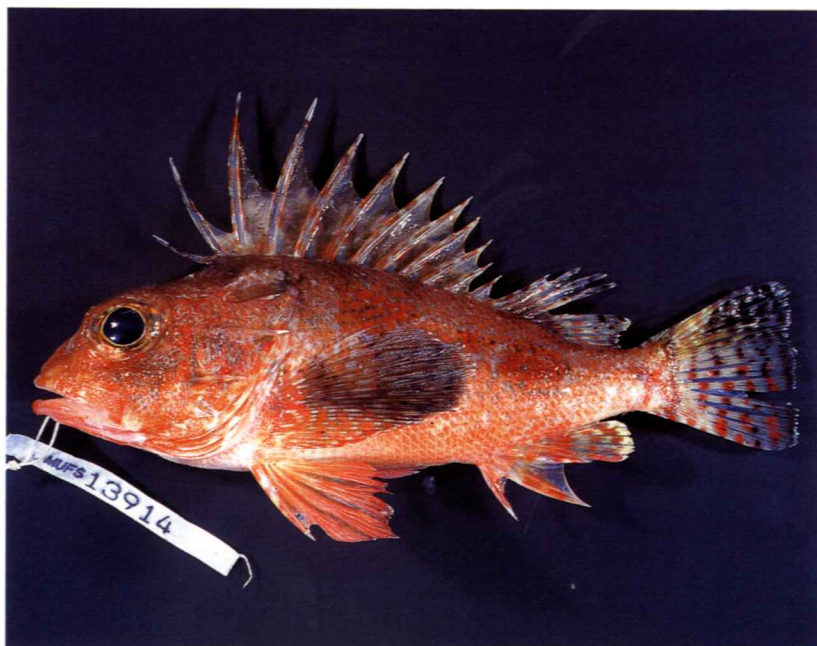


Fig. 1. ヒレナガカサゴ *Neosebastes entaxis*, MUFS 13914, 152 mm SL, Oshima, Meitsu, Nango, Miyazaki, Pacific coast of southern Kyushu Island, Japan. Photo by H. Motomura.

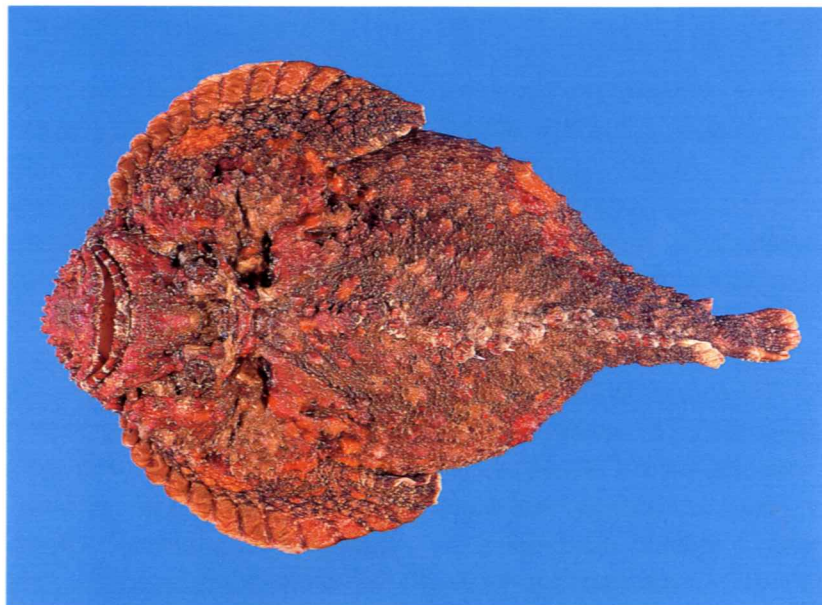


Fig.2. オニダルマオコゼ(背面). Dorsal view of *Synanceia verrucosa*, MUFS 20609, 293 mm SL, Oshima, Meitsu, Nango, Miyazaki, Pacific coast of southern Kyushu Island, Japan. Photo by H. Motomura.

された水中写真が登録されている。

本種は東南アジアを含む熱帯域に分布しないことから、典型的な“anti-tropical distribution”と呼ばれる分布パターンを示す魚類である (Randall, 1981)。

備考

ヒレナガカサゴ属魚類は、日本と台湾からヒレナガカサゴが、オーストラリアからはヒレナガカサゴの他に、*N. bougainvillii* Cuvier, 1829, *N. incispinnis* Ogilby, 1910, *N. nigropunctatus* McCulloch, 1915, *N. pandus* (Richardson, 1842), *N. scorpaenoides* Guichenot, 1867, *N. thetidis* (Waite, 1899) の計7種が報告されている (Randall, 1981; Grant, 1982; Hutchins & Swainston, 1986; Shao & Chen, 1993; 中坊, 1995; Kuitert, 1996; 石田, 1997)。本標本は Jordan & Starks (1904) による *Neosebastes entaxis* の原記載、中坊 (1995) と石田 (1997) のヒレナガカサゴの記載や図、写真とよく一致した。

ヒレナガカサゴは同属他種6種と比較して、背鰭棘が著しく長い (vs. *N. nigropunctatus* では短い; Hutchins & Swainston, 1986) こと、胸鰭後端が腎鰭基底始部を越えない (vs. *N. pandus*

では越える; Hutchins & Swainston, 1986) こと、側線前部が湾曲する (vs. *N. bougainvillii* では湾曲しない; Kuitert, 1996) こと、および体側中央に黒色横帯がない (vs. *N. incispinnis*, *N. scorpaenoides*, および *N. thetidis* では黒色横帯がある; Grant, 1982 および Hutchins & Swainston, 1986) ことによって区別できる。

オニダルマオコゼ

Synanceia verrucosa
Bloch & Schneider, 1801
(Figs. 2 & 3)

材料

MUFS 20609~20610、2 個体、標準体長 242~293 mm (全長 295~355 mm)、宮崎県南郷町目井津大島西部、水深 8 m 以浅、小型定置網 (掛網)、上山和弘・本村浩之採集。

記載

背鰭13棘6軟条、腎鰭3棘5~6軟条、胸鰭軟条18~19、腹鰭1棘5軟条、眼下骨棘数8、前鰓蓋骨棘数5、涙骨下縁棘数7。

標準体長に対する割合を以下に示す。頭長2.30~2.44、体高2.00~2.32、胸鰭基部の体幅1.89~1.90、眼径22.59~24.02、両眼間隔幅7.55~8.42、眼後長3.78~3.94、吻長7.53~8.12、上顎

長4.77~5.05、胸鰭長2.98~3.34、腹鰭長3.49~3.95、尾柄長8.91~9.26、尾柄高9.71~9.97。

頭部は縦扁し、眼は背側に位置する。胸鰭は著しく大きい。眼隔域は深く窪む。体には一様に多数の明瞭なこぶがある。

生鮮時の体色はFigs.2 & 3を参照。10%ホルマリンで固定後、70%エチルアルコール中に保存された標本の体色はMUFS 20609~20610の2標本に基づく。体は一様に灰色。胸鰭、腹鰭、および腎鰭の下縁と尾鰭後縁は赤褐色。

生息状況

これまで、本種は宮崎県周辺海域では本報告の2個体以外採集されていないことから、同海域における本種の生息数は極めて少ないと考えられる。また、本種は、日本本土からは本報告の他には高知県柏島から3個体が報告されているにすぎない (平田ほか, 1996)。本種の成魚は遊泳能力が著しく低く (Grant, 1982)、日本本土での出現は琉球列島から海流によって稚魚期に分散、定着したことによるものと思われる。ただし、本報告で用いた1標本 (MUFS 20609) の卵巣は成熟しており、本種が同海域で再生産を行っている可能性もある。

分布

本種はインド・太平洋域に広く分布し、その分布範囲は本属魚類の中で最も広い (Eschmeyer & Rama Rao, 1973)。国内では琉球列島と薩南諸島 (中坊, 1995; 石田, 1997)、小笠原諸島 (Randall *et al.*, 1997)、宮崎県南郷町大島 (本報告)、および高知県柏島 (平田ほか, 1996) から標本に基づき報告されている。また、本種は伊豆諸島八丈島から水中写真 (KPM-NR 4338 & KPM-NR 38385) に基づく記録がある (古瀬ほか, 1996; 瀬能 宏氏私信)。

備考

オニダルマオコゼ属魚類は、インド・太平洋域から *Synanceia alula* Eschmeyer et Rama Rao, 1973, *S. horrida* (Linnaeus, 1766), *S. nana* Eschmeyer et Rama Rao, 1973, *S.*

platyrhynchus Bleeker, 1874、オニダルマオコゼの計5種が認められている (Eschmeyer & Rama Rao, 1973)。日本からは従来オニダルマオコゼ1種が報告されてきたが、最近、吉野ほか (1997) によってツノダルマオコゼ *S. horrida* が八重山諸島から報告された。

本標本は Eschmeyer & Rama Rao (1973) の *S. verrucosa* の記載や図、中坊 (1995) および石田 (1997) によるオニダルマオコゼの記載や図、写真とよく一致した。本種は胸鰭軟条数が18~19であることから同属他種4種と容易に区別できる (vs. *S. alula* では11、*S. nana* では14~16、*S. platyrhynchus* では17、ツノダルマオコゼでは15~17; Eschmeyer & Rama Rao, 1973)。

引用文献

- 尼岡邦夫. 1984. フサカサゴ科. Page 296 in 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編. 日本産魚類大図鑑. 和文版. 東海大学出版会, 東京.
- Eschmeyer, W. N. & K. V. Rama Rao. 1973. Two new stonefishes (Pisces, Scorpaenidae) from the Indo-West Pacific, with a synopsis of the subfamily Synanceiinae. Proc. Calif. Acad. Sci., 4th Ser., 39(18): 337-382.
- 古瀬浩史・瀬能 宏・加藤昌一・菊地 健. 1996. 魚類写真資料データベース (KPM-NR) に登録された水中写真に基づく八丈島産魚類目録. 神奈川自然誌資料, (17): 49-62.
- Gloerfelt-Tarp, T. & P. J. Kailola. 1984. Trawled fishes of southern Indonesia and northwestern Australia. xvi + 406 pp., 3 pls. Austr. Develop. Assist. Bur., Australia.
- Grant, E. M. 1982. Guide to fishes. 896 pp., 459 pls. Dept. Harbours and Marine, Brisbane.
- 平田智法・山川 武・岩田明久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘. 1996. 高知県柏島の魚類相: 行動と生態に関する記述を中心として. 高知大学海洋生物教育研究センター研究報告, (16): 1-177, pls. 1-3.
- Hubbs, C. L. & K. F. Lagler. 1958. Fishes of the Great Lakes region. Published as Bull. Cranbrook Inst. Sci., 26: i-xiii + 1-213, col. pls. 1-44 by Univ. Michigan Press, Ann Arbor.
- Hutchins, B. & R. Swainston. 1986. Sea fishes of southern Australia. 180 pp. Swainston Publ., Perth.

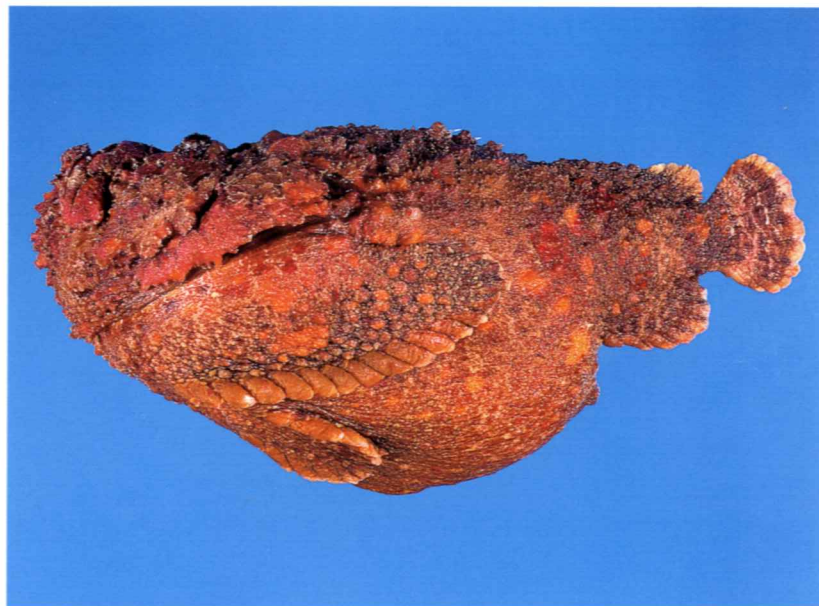


Fig.3. オニダルマオコゼ(側面). Lateral view of *Synanceia verrucosa*, MUFS 20609, 293 mm SL, Oshima, Meitsu, Nango, Miyazaki, Pacific coast of southern Kyushu Island, Japan. Photo by H. Motomura.

- 石田 実. 1997. フサカサゴ科. Pages 189-209 in 岡村 収・尼岡邦夫編・監修. 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- Jordan, D. S. & E. C. Starks. 1904. A review of the scorpaenoid fishes of Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., 27: 91-175, pls. 1-2.
- Kuiter, R. H. 1996. Guide to sea fishes of Australia. vi + 433 pp. New Holland Ltd., London.
- Motomura, H. & Y. Iwatsuki. 1997. A preliminary report of scorpaenid, synanceiid, tetraogid and aploactinid fishes in Miyazaki waters, southern Japan. Bull. Fac. Agr., Miyazaki Univ., 44(1/2): 127-138.
- 本村浩之・岩槻幸雄. 1999. 日向灘より得られたフサカサゴ科魚類2種. I. O. P. Diving News, 11(1): 2-4.
- 中坊徹次. 1995. フサカサゴ科. Pages 491-518, 1295-1298 in 中坊徹次編. 日本産魚類検索: 全種の同定. 初版補訂第2刷. 東海大学出版会, 東京.
- Nelson, J. S. 1994. Fishes of the world. 3rd ed. xvii + 600 pp. John Wiley & Sons, New York.
- Randall, J. E. 1981. Examples of antitropical and antiequatorial distribution of Indo-West-Pacific fishes. Pacific Sci., 35: 197-209.
- Randall, J. E., H. Ida, K. Kato, R. L. Pyle & J. L. Earle. 1997. Annotated checklist of the inshore fishes of the Ogasawara Islands. Nat. Sci. Mus. Monogr., (11): 1-74, pls 1-19.
- Shao, K.-T. & J.-P. Chen. 1993. Scorpaeniformes. Pages 234-262, 666-678 (as pls. 55-67) in S.-C. Shen, ed. Fishes of

Taiwan. Dept. Zool. Nat. Taiwan Univ., Taipei. (In Chinese.)

吉野哲夫・昆 健志・桜井 雄. 日本初記録のオニダルマオコゼ亜科魚類 *Synanceia horrida* ツノダルマオコゼ (新称). 魚類学雑誌, 44(2): 97-100.

(もとむらひろゆき: 宮崎大学, 鹿児島大学大学院連合農学研究科; うえやまかずひろ・いわつきゆきお: 宮崎大学農学部水産科学講座)

Abstract

Records of two scorpaenid fishes from Miyazaki waters, southern Japan

Hiroyuki Motomura, Kazuhiro Ueyama & Yukio Iwatsuki

(HM: Miyazaki University, the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-1 Gakuen-kibanadai-nishi, Miyazaki 889-2192, Japan [E-mail: a02113u@cc.miyazaki-u.ac.jp]; KU & YI: Division of Fisheries Sciences, Faculty of Agriculture, Miyazaki University, 1-1 Gakuen-kibanadai-nishi, Miyazaki 889-2192, Japan)

Scorpaenid fishes, *Neosebastes entaxis* Jordan & Starks, 1904 and *Synanceia verrucosa* Bloch & Schneider, 1801 were collected from Oshima, Meitsu, Nango, Miyazaki, Pacific coast of southern Kyushu Island, Japan and described on the basis of a single specimen (152 mm SL) and two specimens (242-293 mm SL), respectively. These specimens represent the first reliable record from Miyazaki waters, southern Japan.